



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月9日

上場会社名 株式会社 ソフト99コーポレーション
 コード番号 4464 URL <https://www.soft99.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 田中 秀明
 (氏名) 上尾 茂
 TEL 06-6942-8761

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	20,380	8.9	2,577	29.4	2,746	28.6	1,828	18.9
2020年3月期第3四半期	18,722	2.3	1,992	6.6	2,136	6.1	1,537	1.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 2,177百万円 (16.7%) 2020年3月期第3四半期 1,866百万円 (52.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	83.66	
2020年3月期第3四半期	70.62	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	57,488	50,071	87.1	2,287.28
2020年3月期	55,255	48,380	87.6	2,217.42

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 50,071百万円 2020年3月期 48,380百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		12.00		12.00	24.00
2021年3月期		13.50			
2021年3月期(予想)				13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,700	5.2	2,650	9.4	2,770	7.1	1,930	5.8	88.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	22,274,688 株	2020年3月期	22,274,688 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	383,476 株	2020年3月期	456,441 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	21,856,050 株	2020年3月期3Q	21,773,741 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料5ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けており、企業活動においては、感染症対策を講じる中で生産は持ち直しておりますが、設備投資は低調に推移いたしました。

個人消費においては、行政による各種施策により持ち直しの動きはあるものの、雇用情勢の悪化や、感染症拡大の懸念は続いており、先行きは不透明な状況にあります。

また、世界経済においてもアメリカ、ヨーロッパを中心に感染症拡大が継続しており、経済活動や個人の行動が制限されるなど予断を許さない状況となっております。

このような経済環境の下で、当社グループは「生活文化創造企業」の企業理念の下、より幅広い社会課題（事業機会）に向けた他にない製品・サービスの開発と事業化に努めてまいりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高20,380百万円（前年同期比8.9%増）となり、営業利益2,577百万円（同29.4%増）、経常利益2,746百万円（同28.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,828百万円（同18.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(ファインケミカル)

自動車販売においては、新車、中古車ともに販売が回復傾向にあります。新車販売は当第3四半期累計では前期実績を下回っているものの、10月以降前期を上回る実績で推移しております。また、中古車販売は当第3四半期累計で前期実績を上回り好調に推移いたしました。

国内の小売業界においては、ホームセンターなどの量販店はマスクや消毒薬などの衛生用品をはじめ、感染予防のため外出を控えるといったいわゆる巣ごもり消費需要を取り込み、園芸用品、DIY用品、カー用品やインテリア用品が好調に推移しました。

カー用品専門店においては、カーケア製品は引き続き巣ごもり消費需要がユーザー自身で行うカーメンテナンスに波及し好調に推移しました。また12月中旬以降の全国的な冷え込みにより日本海側を中心に大雪となり、これまで苦戦していたタイヤの販売がスタッドレスタイヤを中心に拡大しました。一方で外出自粛によりレジャーや旅行などの遠距離運転の機会が減少したことで、カーエレクトロニクスはドライブレコーダーの販売が苦戦し、オイル交換も低調に推移しました。

①一般消費者向け販売（自動車分野）

ボディケア製品は、前期に発売直後プロモーション展開を強化し出荷が拡大した「レインドロップ」は今期になって販売が落ち着きましたが、新製品の加圧式噴射機を用いたカーシャンプー「パーフェクトフォームスターティングセット」の販売が好調に推移したことや、「レインドロップ20%増量限定品」や「フクピカ増量」の企画品の出荷が順調に進んだことなどにより、前期を上回りました。

ガラスケア製品は、コロナ禍の影響により例年実施している梅雨対策の店頭プロモーションは縮小しておりましたが、第2四半期以降の台風やゲリラ豪雨対策といった店頭プロモーションを計画通り実施したことによる撥水剤の出荷の増加や、12月以降日本海側で大雪となり冬用ワイパーの販売が好調に推移したことなどによって、前期を上回りました。

リペア製品は、巣ごもり消費需要の継続が腰を据えて行うカーリペアの需要増につながったことで、前期を上回りました。

これらの結果、一般消費者向け販売全体で前期を上回る結果となりました。

②業務用製品販売（自動車分野・産業分野）

新車向け販売においては、第2四半期までは苦戦していたものの当第3四半期より回復傾向にあり、得意先の新車ディーラーでは、車両販売に併せて積極的なコーティングサービスの販売を展開したことによって当社ブランドの業務用コーティング剤の出荷が増加し、中古車販売においても車両販売台数の増加を背景に施工台数が増加したことによって、前期を上回る結果となりました。

③家庭用製品販売（生活分野）

主力のメガネケア製品は、感染症拡大防止のために外出時のマスクの着用が季節を問わず一般化したことで「メガネのくもり止め」の販売好調が継続したことや、飛沫感染予防に対する意識の高まりにより「メガネのシャンプー」の販売も堅調に推移しました。併せて、感染症対策ニーズが高まる中、家庭用衛生用品の新ブランド「クリニクル（CLEANICLE）」シリーズの販売を開始したことなどにより、前期を上回る結果となりました。

④海外向け販売（自動車分野）

中国エリアでは、ガラスクリーナーや撥水剤といったガラスケア製品の販売がECチャネルを中心に拡大しました。また、感染症拡大防止からマスクの着用が継続していることによりメガネケア製品の出荷も好調に推移しましたが、中国全体では前期を下回る結果となりました。

中国を除く東アジアでは、台湾においては例年より降水量が減少したことにより主力の撥水剤の販売が低調に推移しました。一方韓国においては、現地代理店のマーケティングが奏功し販路が拡大したことや、降水量の増加に伴ってガラスクリーナーや撥水剤の販売が好調に推移したことにより、台湾の落ち込みをカバーし、東アジア全体で前期を上回りました。

東南アジアでは、タイ向けの出荷は減少したものの、当第3四半期においてシンガポール向けの出荷が増加したことや、マレーシアの現地代理店がECチャネルへ注力し販売が拡大したことなどによって、東南アジア全体で前期を上回りました。

ロシアにおいては、当第3四半期ではロックダウンなどの移動制限はないものの感染者数は増加傾向にあり、ボディケア製品とメンテナンス製品を中心に販売が苦戦し、前期を下回りました。

欧州エリアにおいては、当第3四半期から急激に感染者数が増加し続けており、再び移動制限措置がとられるなどコロナの収束が見えない中、現地代理店が積極的にECチャネルへの販売拡大を図ったことや、外出自粛による巣ごもりが自身で行うカーケア需要の拡大につながったことで、ワックス・撥水剤などの出荷が増加し、前期を上回りました。

ブラジルにおいては、感染者数が高止まりしているものの、現地代理店の積極的な販売プロモーションや現地語パッケージの推進により撥水剤などを中心に販売が増加し、前期を上回りました。

海外向け販売全体では、中国エリアとロシア向け販売の減少を欧州などの他のエリアでカバーしたことによって、前期を上回る結果となりました。

⑤TPMSの企画開発販売（自動車分野）

トラック・バス向けTPMSの運輸運送会社への販売は好調に推移しているものの、乗用車向けTPMSのOEM製品販売が減少し、前期を下回る結果となりました。

⑥電子機器・ソフトウェア開発販売（産業分野）

第1四半期において、顧客の在宅勤務などで遅れていた検収が進んだことや3Gの停波に伴う4Gへの通信規格切り替え需要を受けて受注が好調に推移したことで、前期を上回る結果となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間のファインケミカル事業の売上高は10,723百万円（同11.7%増）となりました。また、営業利益は売上高の伸長による売上総利益の増加や営業費用の減少などにより1,864百万円（同57.1%増）となりました。

（ポーラスマテリアル）

①産業資材部門（産業分野）

半導体市場においては、生活様式の変化により在宅勤務が浸透し、ノートパソコンやクラウド向けのメモリやストレージ需要の増加や、通信規格が4Gから5Gへと変わりつつある中で通信端末などのデバイスの更新に伴う需要の増加が見込まれます。一方でこれらの電子機器分野の需要増に伴い、車載向け半導体は供給不足が懸念されるなど、半導体の供給はひっ迫することが予想されます。

国内向け販売は、主力の半導体製造用途向けにおいては、需要増加を背景に出荷が増加いたしました。また、取り組みを強化している医療用途向けにおいては、PCR検査用部材の出荷が増加したことや、M&Aにより新たに病院施設向け衛生用品の販売をスタートしたことにより増加いたしました。一方でプリンター用途向けがペーパーレス化の流れから需要が落ち込み出荷が減少しましたが、半導体製造向けと医療用途向けの増加により、国内向け販売全体で前期を上回る結果となりました。

海外向け販売は、感染症拡大に起因する物流不安からユーザーの在庫積み増しによる需要増が前第4四半期から継続しております。当第3四半期においても、半導体需要の拡大が継続することでユーザーの在庫調整による出荷の減少がみられなかったことや、HDD研磨用途向けにおいても出荷が増加したことから、海外向け販売全体で前期を上回り、産業資材全体でも前期を上回る結果となりました。

②生活資材部門(自動車分野・生活分野)

国内向け販売は、巣ごもり消費需要を受けて家庭用製品を中心に出荷が増加したことにより、前期を上回りました。

海外向け販売は、主要仕向け地である米国では市況の回復が見られ出荷が増加したものの、インドネシアは感染症拡大を抑え込むための移動制限が継続し量販店が営業を縮小したこと、また、韓国においてはスポーツ用途向けの製品が感染症拡大防止による施設の閉鎖などが継続したことによって需要が縮小し、前期を下回りました。

生活資材全体では、海外の落ち込みを国内の販売好調によりカバーしたことで、前期を上回る結果となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間のポーラスマテリアル事業の売上高は4,617百万円(同10.4%増)となりました。また、営業利益は、売上高の増加と併せて営業経費の減少により、564百万円(同3.4%増)となりました。

(サービス)

①自動車整備・钣金事業(自動車分野)

コロナ禍における近場を安全に移動する手段としての自動車の利用機会増加や輸入車ディーラーへの積極的な入庫促進活動により、钣金入庫は回復傾向にあるものの、例年に比べると低い水準に留まりました。一方で取組みを強化しているプロテクションフィルムやコーティング施工、物販は好調に推移しましたが、钣金入庫の低迷をカバーできず、前期を下回る結果となりました。

②自動車教習事業(自動車分野)

2020年4月の緊急事態宣言に伴う営業自粛要請を受けて約1カ月間休業期間がありましたが、営業再開後は受講を待機頂いていた在籍者と併せて新規入所希望者が例年に比べて増加しました。これに対して教習時限数を増加することで教習ニーズ増加に対応し、営業再開後の教習稼働は好調に推移しましたが、休業期間における売上高の減少をカバーするには至らず、わずかに前期を下回る結果となりました。

③生活用品企画販売事業(生活分野)

外出による感染リスクを避けるための通販需要の高まりにより、主力の生協向け販売やECチャネルによる販売が好調に推移し、前期を上回る結果となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間のサービス事業の売上高は、自動車整備钣金事業と教習事業の売上高の減少を生活用品企画販売事業でカバーし4,140百万円(同6.9%増)となりましたが、営業利益は77百万円(同2.2%減)となりました。

(不動産関連)

①不動産賃貸事業(生活分野)

保有物件において入居が増加し稼働率を高く保ったことで、前期を上回る結果となりました。

②温浴事業(生活分野)

2020年4月の緊急事態宣言に伴う営業自粛要請を受け、およそ1カ月間にわたり、公衆浴場の営業許可のない1店舗の営業を自粛、残り2店舗においても混雑を避けるためGW期間は営業を自粛、また期間中全店舗において飲食部門の営業を自粛しておりました。緊急事態宣言解除後は感染症対策を徹底しながら営業を再開し、イベントの実施など集客に努めてまいりましたが、週末にファミリーで来店頂くお客様の戻りが遅いことや、飲食の利用も低下したことから、前期を下回る結果となりました。

③介護予防支援事業(生活分野)

外出自粛を理由とする利用者の解約が増加したことや、利用者の来所頻度も減少したことにより、前期を下回る結果となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の不動産関連事業の売上高は、899百万円(同16.1%減)となり、営業利益は64百万円(同63.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、57,488百万円（前連結会計年度末は55,255百万円）となり、2,233百万円増加いたしました。これは主に、ファインケミカル事業における一般製品販売やポーラスマテリアル事業の販売が増加した結果、売上債権が1,585百万円増加したこと、金融市場が好調に推移したことなどによって、有価証券及び投資有価証券が合わせて461百万円増加したこと、また2020年8月にアズテック株式会社の全株式を取得したことにより、のれんが646百万円増加したことや当社保有の不動産が完成したことなどに伴い建物及び構築物が117百万円増加した一方で建設仮勘定が87百万円減少したことや、現金及び預金が400百万円減少したことなどによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、7,416百万円（前連結会計年度末は6,874百万円）となり、541百万円増加いたしました。これは主に、ファインケミカル事業における一般製品販売やポーラスマテリアル事業の販売が増加したことに伴い仕入債務が134百万円増加、また金融市場が好調に推移したことによって繰延税金負債が187百万円増加したことなどによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、50,071百万円（前連結会計年度末は48,380百万円）となり、1,691百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が1,269百万円増加したことやその他有価証券評価差額金が340百万円増加したことなどによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、1,463百万円の流入（前年同期は1,176百万円の流入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が2,746百万円、減価償却費が571百万円となったこと、販売の拡大に伴って売上債権が1,410百万円増加したことや仕入債務が98百万円増加したこと、法人税等の支払額868百万円などを要因としております。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、1,354百万円の支出（前年同期は568百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出456百万円、投資有価証券の取得による支出601百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入632百万円、また連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出865百万円を要因としております。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、549百万円の支出（前年同期は539百万円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払額539百万円などを要因としております。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は17,340百万円となり、前連結会計年度末と比較して441百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結期間は、2020年4月の緊急事態宣言による休業要請に従い営業を一時停止したサービスセグメントの教習事業や不動産セグメントの温浴事業においては、販売は回復傾向にあるものの、営業停止による販売減少の影響の全てをカバー出来ていない状況です。一方で当社グループの主力事業であるファインケミカルセグメントやサービスセグメントの生活用品企画販売事業では、巣ごもり消費需要の継続により販売が好調に推移し、教習事業や温浴事業の落ち込みカバーしたことで、グループ全体の売上高は前年実績を上回りました。また、営業利益においても、ファインケミカルセグメント・ポーラスマテリアルセグメントの販売伸長による売上総利益の増加などにより前年を上回りました。

足元ではコロナ禍は再び拡大傾向にあり、政府により関東・関西を中心に再度の緊急事態宣言が発出されたことに伴い、当社の各事業においては引き続きプラス・マイナスの両面の影響が出ることが想定されますが、これらの影響を正確に見通すことは困難であることから、当社グループの通期連結業績予想につきましては、2020年10月26日の公表値を据え置き、売上高は25,700百万円、営業利益は2,650百万円、経常利益は2,770百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,930百万円といたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,274,995	17,874,188
受取手形及び売掛金	3,160,601	4,546,937
電子記録債権	559,874	758,670
有価証券	200,549	500,054
商品及び製品	2,114,037	2,016,354
仕掛品	471,697	376,892
原材料及び貯蔵品	748,216	839,697
その他	215,512	243,641
貸倒引当金	△20,120	△23,165
流動資産合計	25,725,363	27,133,271
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,375,974	5,493,327
機械装置及び運搬具（純額）	822,006	780,435
土地	15,545,376	15,545,587
建設仮勘定	227,281	140,066
その他（純額）	244,286	262,485
有形固定資産合計	22,214,925	22,221,903
無形固定資産		
のれん	17,250	663,643
その他	181,868	171,071
無形固定資産合計	199,119	834,715
投資その他の資産		
投資有価証券	6,513,942	6,675,919
繰延税金資産	317,490	296,219
その他	321,195	364,931
貸倒引当金	△36,802	△38,669
投資その他の資産合計	7,115,826	7,298,401
固定資産合計	29,529,871	30,355,020
資産合計	55,255,234	57,488,291

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,109,442	1,243,497
1年内返済予定の長期借入金	—	73,430
未払法人税等	518,975	506,757
未払金及び未払費用	1,206,601	1,186,301
その他	481,765	733,746
流動負債合計	3,316,785	3,743,733
固定負債		
長期借入金	123,225	—
繰延税金負債	163,543	351,516
再評価に係る繰延税金負債	830,663	830,663
役員退職慰労引当金	336,725	378,095
退職給付に係る負債	1,598,801	1,624,134
その他	505,205	488,792
固定負債合計	3,558,164	3,673,202
負債合計	6,874,949	7,416,935
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,310,056	2,310,056
資本剰余金	3,286,444	3,286,444
利益剰余金	42,712,980	43,982,136
自己株式	△368,051	△295,378
株主資本合計	47,941,429	49,283,258
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,084,887	1,425,338
土地再評価差額金	△643,437	△643,437
為替換算調整勘定	53,477	52,751
退職給付に係る調整累計額	△56,073	△46,556
その他の包括利益累計額合計	438,855	788,096
純資産合計	48,380,284	50,071,355
負債純資産合計	55,255,234	57,488,291

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	18,722,547	20,380,782
売上原価	11,806,031	12,777,718
売上総利益	6,916,516	7,603,063
販売費及び一般管理費	4,924,491	5,025,881
営業利益	1,992,025	2,577,182
営業外収益		
受取利息	14,592	16,915
受取配当金	58,672	65,474
助成金収入	300	41,618
その他	79,768	53,639
営業外収益合計	153,334	177,648
営業外費用		
支払利息	11	12
手形売却損	278	174
為替差損	231	265
その他	8,625	7,806
営業外費用合計	9,146	8,259
経常利益	2,136,212	2,746,571
特別利益		
固定資産売却益	10,399	6,617
投資有価証券売却益	88,665	2,883
特別利益合計	99,064	9,500
特別損失		
固定資産売却損	—	1,680
固定資産除却損	6,316	8,293
投資有価証券売却損	565	—
特別損失合計	6,881	9,974
税金等調整前四半期純利益	2,228,395	2,746,096
法人税、住民税及び事業税	638,315	864,102
法人税等調整額	52,359	53,545
法人税等合計	690,675	917,648
四半期純利益	1,537,720	1,828,448
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,537,720	1,828,448

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1,537,720	1,828,448
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	331,720	340,450
為替換算調整勘定	△10,549	△725
退職給付に係る調整額	7,910	9,516
その他の包括利益合計	329,082	349,241
四半期包括利益	1,866,802	2,177,690
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,866,802	2,177,690
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,228,395	2,746,096
減価償却費	585,462	571,729
のれん償却額	4,312	38,560
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△1,628	41,369
受取利息及び受取配当金	△73,265	△82,390
支払利息	11	12
固定資産売却損益 (△は益)	△10,399	△4,936
投資有価証券売却損益 (△は益)	△88,099	△2,883
売上債権の増減額 (△は増加)	△629,106	△1,410,109
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△205,928	132,075
仕入債務の増減額 (△は減少)	△71,168	98,108
その他	5,305	117,757
小計	1,743,890	2,245,391
利息及び配当金の受取額	76,255	86,510
利息の支払額	△11	△12
法人税等の支払額	△643,702	△868,655
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,176,432	1,463,233
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	194,771	△40,888
有形固定資産の取得による支出	△602,727	△456,975
有形固定資産の売却による収入	21,658	21,824
投資有価証券の取得による支出	△606,259	△601,423
投資有価証券の売却及び償還による収入	502,375	632,756
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△865,104
その他	△78,455	△44,745
投資活動によるキャッシュ・フロー	△568,636	△1,354,555
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△47,918	△49,794
自己株式の取得による支出	△46	△35
自己株式の処分による収入	64,640	72,708
配当金の支払額	△526,146	△539,172
その他	△30,228	△33,681
財務活動によるキャッシュ・フロー	△539,698	△549,975
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,552	△184
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	66,544	△441,482
現金及び現金同等物の期首残高	16,818,096	17,782,287
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,884,641	17,340,804

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	ファイン ケミカル	ポーラス マテリアル	サービス	不動産関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,596,477	4,181,144	3,873,389	1,071,536	18,722,547	—	18,722,547
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	53,447	28,793	9,607	79,471	171,320	△171,320	—
計	9,649,925	4,209,937	3,882,997	1,151,008	18,893,868	△171,320	18,722,547
セグメント利益又は 損失(△)	1,186,804	545,755	79,675	177,151	1,989,387	2,637	1,992,025

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っており、セグメント利益の調整額2,637千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	ファイン ケミカル	ポーラス マテリアル	サービス	不動産関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,723,584	4,617,100	4,140,956	899,141	20,380,782	—	20,380,782
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	56,146	27,567	9,234	74,962	167,911	△167,911	—
計	10,779,731	4,644,667	4,150,190	974,103	20,548,693	△167,911	20,380,782
セグメント利益又は 損失(△)	1,864,403	564,314	77,919	64,549	2,571,186	5,995	2,577,182

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っており、セグメント利益の調整額5,995千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ポーラスマテリアル」セグメントにおいて、アズテック株式会社の株式を取得しております。

当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、684,953千円であります。